

技術のポイント

- ・ユーザーが診断に必要な情報をシステムに登録することで、薬剤散布適期開始日を含む電子メールを受信することができます。
- ・パソコンが使える環境があれば、全国のどこでも誰でも利用できます。
- ・個々の農家だけでなく、広域予測にも利用可能なツールです。

活用先・活用方法

米の生産者、採種農家、JA、普及センター、試験研究機関及び農薬メーカー。本病の防除を目的にした普及活動に利用できます。

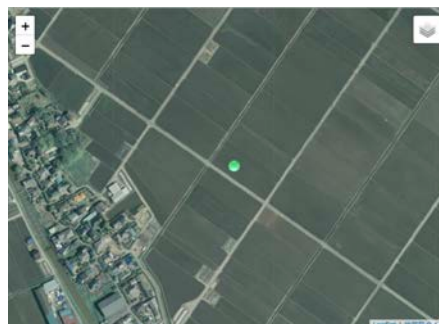
ねらい

近年の気象変動に伴い、イネ稲こうじ病の発生が全国的に問題となっています。規格米の発生や販売種子に病粒が混入するクレームが起きています。圃場での発生を効果的に抑制するためのサポートツールとして新たに本システムを開発しました。

問い合わせ先：農研機構本部 広報課

029-838-8988

<https://pursue.dc.affrc.go.jp/form/fm/naro001/tech>



地図上で圃場登録



診断情報を登録



メール自動配信

登録された薬剤「ドイツボルドーA」の散布適期に入りました。(7月2日)
登録内容
アメダス地点：高田（北陸）
移植日：2018-05-05
品種（圃場抵抗性程度）：
コシヒカリ（1.0）

図1 システムの概要

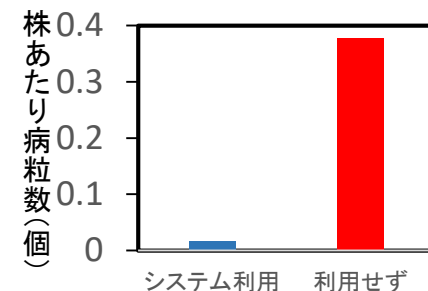


図2 配信メールを利用して防除した場合としない場合の比較